平成１１年６月２４日

前腕部に刺鍼して直後効果のあった小指のばね指

症例報告

元吉　正幸

本症例は、畑仕事で手指を使った後の、右小指を屈曲及び伸展する途中での中手指節関節部の引っかかり感と痛みで来院した患者である。ばね指と診断して鍼灸治療を行い、４１回の治療で症状は、ほぼ消失した。

症例　女性　７１歳　農業

初診　平成１１年３月１８日

主訴　右小指の屈曲及び伸展時の途中での引っかかり感と痛み

現病歴　２週間くらい前に畑で草取りの作業をしている際に右小指に痛みを感じた。その後も畑仕事はしていたが、右小指に痛みを感じていた。１週間くらい前より、畑仕事をしていなくとも、右小指の屈曲及び伸展の途中で引っかかるような感じがして疼痛が誘発するようになった。現在その症状は増悪傾向にあり、畑仕事をするのにも支障を感じるため来院した。自発痛、夜間痛はない、スポーツはしない。アルコールは飲まない。

既往歴　特記すべきものなし

家族歴　特記すべきものなし

診察所見　体型はやせ形で腕は細い、特に指関節の変型は認められない。伸展位での小指の牽引及び軸圧痛は認められない。他動的な内旋及び外旋痛は認められない。外転及び内転の自動運動、他動運動共に疼痛の誘発は認められない。握り動作で小指が他の指より遅れて曲がってくる。握り動作の中間点付近で小指の引っかかり感があり痛みを感じるが激痛ではないため少し我慢してそこを通過すると痛みがなく握ることができる。しかし強く握ると、小指の中手指節関節に疼痛が誘発する。手指の朝のこわばり感はない、指関節部の熱感、腫張、発赤はない。圧痛は右小指、中手指指節関節部の外側と掌側部に認められ、触診では健側と比較して掌側部の圧痛部にやや肥厚が認められた。浅指屈筋と深指屈筋部に圧痛が認められた（図１）。

診　断　本症例は、発症状況、掌側部の右第５中手指節関節部の圧痛と肥厚、小指の屈曲と伸展時の途中の引っかかり感よりばね指と診断した。

対　応　これは、ばね指です。指を曲げるのは腕の筋肉が働くからですが、手のひらの押して痛みのある部分はヒモのようになっていて指に曲げる力が伝わります。力の方向を変える所には腱鞘と言って、すべりをよくするサヤがありますが、畑仕事で忙しかったためにスジと腱鞘が腫れたためにスジの動きが悪くなり、引っかかりを感じたり痛みを感じたりするのです。症状が進むと引っかかりが強くなって指の曲がりが途中で止まるようになり、曲げようと力を入れると、ばねでも指に仕掛けたような曲がり方になってしまいます。まだ症状が軽いですから、今のうちに指をあまり使わないよう安静にして、腫れが引くようにしましょう。腕の筋肉も緊張するとよけいに痛いところに負担がかかるので、鍼灸治療で筋肉をゆるめたり痛いところの炎症を鎮めるようにしましょう。

治療・経過　鍼灸治療は、浅指屈筋、深指屈筋の緊張を緩め、腱鞘部への負担を軽減する目的として鍼治療を腱鞘部の血流の改善を目的に灸治療を行った。治療体位は座位で、浅指屈筋、深指屈筋部と掌側、第５中手指節関節部に低周波導子を用い通電を行い、ホットパックで２０分間加温した。しかし症状は少し楽になったようだ、というものの引っかかり感はあい変わらずであった。そこで浅指屈筋、深指屈筋のうち圧痛が強い部位を選び、ステンレス鍼の１寸－１番（３０ｍｍ－１６号）を用い直刺または斜刺で、浅指屈筋深指に当たるよう２ｃｍほど刺入し３回ほど旋捻したのち抜刺することを５箇所行ったのち症状をたずねたところ指の握り動作の途中で小指の遅れてくることがなくなり、途中で少し引っかかるような違和感があるもののスムーズに曲げられるようになった。圧痛部に、大喜多商会製灸点紙を用い熱くなるまで灸を行ったがその直後効果は認められなかった。

第２回（３月１９日，２日目）

朝起きて小指を動かしたらほとんど元の状態にもどっているようだという。昨日と同様の治療を行いほぼ同様の効果が得られた。

第７回（３月２６日，９日目）

少しずつ症状は軽くなっている。指の遅れも良くなってきたようだ。しかし畑仕事をどうしてもしてしまうが作業中、痛みを感じる。

第１０回（3月３０日，１３日目）

前日に草とりを多くしたせいか、症状が増悪し初回の来院時ほどではないが、いつもより引っかかり感がある。前腕部に刺鍼しても、今回は引っかかり感が軽くならないため、深谷伊三郎の著書に、背部の圧痛点にお灸をすえるとよいというのを思い出し、背部に圧痛点を探ったところ、左風門に圧痛があったのでそこに米粒大、７壮の知熱灸をすえたところ、指の引っかかり感が軽減した

第１１回（3月３１日，１４日目）

指の屈曲時の引っかかり感は前腕部の刺鍼で軽減したので左風門の灸は３壮とした。

第２０回（4月１０日，２４日目）

どうしても畑仕事をしてしまうせいか、朝方引っかかり感がある。仕事中の痛みを感じる回数が少なくなってきた。治療をすると楽なのでつい帰ってから仕事をしてしまう。お灸をしているせいか、肩こりを感じなくなった。

第３２回（4月２８日，４２日目）

今回は、鍼灸治療をする前に指を曲げ伸ばししているうちに引っかかり感が軽くなり、スムーズに曲げられるようになった。

第３３回（5月１日，４５日目）

鍼灸治療をしなくても、指を曲げ伸ばししてるうちにだんだんと指の動きがスムーズになる。畑仕事でもあまり痛みを感じず仕事ができる。中手指節関節の外側が少し痛いのが気になるということなので、灸点紙を用い熱く感じるまで灸を行った。

第４１回（5月１９日，６３日目）

症状ほぼ消失し治療を終了とした。

考察　本症例をばね指と診断した。以下にその理由を述べる。

１．畑仕事というくり返される機械的過労があったこと。[1) 2)]

２．小指をある程度に屈曲すると、運動が抑制されたこと。[1)]

３．右第５中手指節関節、掌側の腱鞘部に圧痛と肥厚が認められた。[1) 2)]

なお臨床症状から以下の類症疾患を除外した。

１．慢性関節リウマチ

他関節の痛み、手指のこわばり感がない。

２．外傷性腱鞘炎

特に強く捻ったとか打撲したということがない。

３．化膿性腱鞘炎、結核性腱鞘炎

自発痛、夜間痛が認められない。

ばね指は主に使い過ぎによって起こる場合とくり返される機械的刺激によって起こり、滑膜性腱鞘の腫脹と靭帯性腱鞘の肥厚、腱実質の結節性腫大によって生ずるとされている[2)]。

本症例は、ばね現象も顕著には認められず、軋音も認められないため[1)] 重症度は軽度のばね指であるといえるが、畑仕事を行いながらの治療ということで、安静という指示があまり守られず、治療に長期を要したものと思われる。小指を屈曲するのは浅指屈筋と深指屈筋であるが[3)] C．CHAN　GUNNは[4)] 筋の短縮は腱に機械的なストレスを与え、摩滅を促進しばね指が起こると述べている。手指の使い過ぎによる浅指屈筋、深指屈筋の過労により、原発性の筋肉痛を引き起こし筋の短縮が引き起こされ、第５中手指節関節掌側の腱鞘と腱に炎症と肥厚が引き起こされたと考えられる。浅指屈筋と深指屈筋に刺鍼した結果、筋の短縮が緩和された結果、腱と腱鞘への機械的ストレスも緩和され症状の緩解につながったと考える。刺鍼の結果、症状の緩解が得られなかったときに背部への圧痛点に灸治療をしたところ症状が緩解したが[5)]、これは、トリガーポイント（発痛点）が前腕の筋肉のトーヌスを高める原因となっていたのではないかと示唆される[6)]。本症例は患者が仕事を行いながらの治療であったため軽症にもかかわらず長期の治療を用したが症状もほぼ消失したことから治療はおおむね妥当であったと思われる。

経穴の位置

風門　背２行上で、第２，第３胸椎棘突起間の高さ。

参考文献

1）木下春都：手の関節痛「最新鍼灸治療学」
P．１３３．医道の日本社、１９８６．

2）平澤精一：腱鞘炎・ばね指「整形外科非観血的治療法のコツ」
P．７２．金原出版１９９６．

3）Ｃｌｅｍ　Ｗ．Ｔｈｏｍｐｓｏｎ，ＲＴ．Ｆｌｏｙｄ：手と手首の関節
「身体運動の機能解剖」Ｐ．７０－７１．医道の日本社、１９９７．

4）Ｃ．ＣＨＡＮ　ＧＵＮＮ：「筋筋膜痛の治療」
Ｐ．３４－３５．克誠堂出版、１９９５．

5）深谷伊三郎：「お灸で病気を治した話」
Ｐ．５２－５４．鍼灸之世界社、１９７７．

6）Ｓａｌｌｙ　Ａ．Ｃｕｍｍｉｎｇｓ，Ｇｅｒａｌｄ　Ａ．Ｄｒｉｓｃｏｌｌ
：「絵で見るトリガーポイント」Ｐ．１．株式会社アプライ、１９９５．

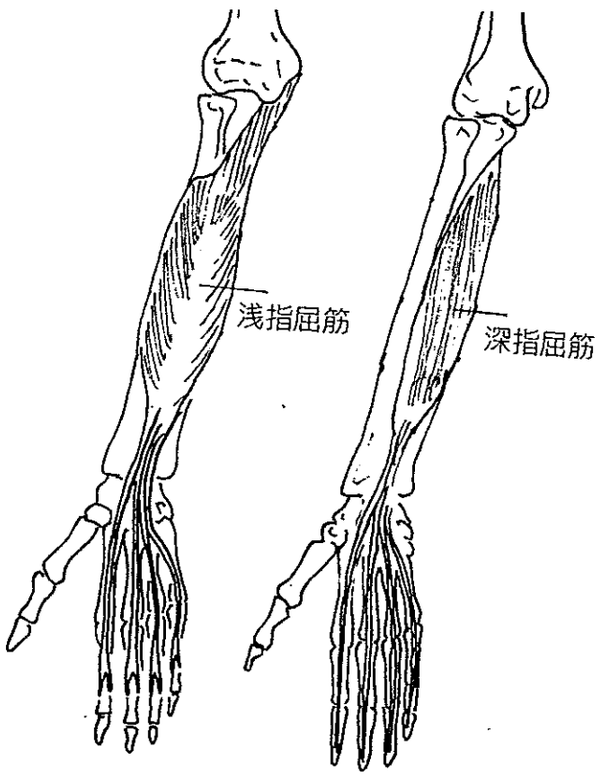

図１　浅指屈筋と深指屈筋